

盲導犬を普及させる会



発行：「盲導犬を普及させる会」

〒271-0092

千葉県松戸市松戸 1813-1-905

TEL 090-8003-7790

FAX 047-711-9988

info@nodakenfukyu.net

第 16 回身体障害者補助犬交流会

〔写真で見る活動の記録〕

松戸市 21 世紀の森アウトドアセンターにて BBQ



入店可シール貼付をお願いします



募金箱設置のお願い



盲導犬ユーザー＆松戸市視覚障害者協会の講話 手引き歩行実習(ボーイスカウト松戸5団) 余興:出前盆踊り隊

ご支援ありがとうございます(敬称略) 近年会員減少により、会運営に支障が生じています。年会費千円ですが、**お知り合いの方をご紹介します。**＜賛助会員＞海老原八重、ホテルミラマーレ、今村正、イワブチ(株)、原宏隆、安藤じゅん子、渡新工業(株)、剣持英子＜寄付金＞高橋清江、戸松美佐子、長谷川容一郎、帰山吉弘、関勝仁、丹澤明子、ホテルミラマーレ、齋藤漣子、片倉悦子、上野京子、田沼香代子、矢代大三郎・八千代、中村明雄、中西淑江、森俊士、道端久美子、小板橋病院、松澤廣治、剣持英子、海老原八重、野田英子、安藤じゅん子、小坏淳志＜協賛金＞よしかわ動物病院、セキハウス(株)＜募金箱＞東京軒、小金原動物クリニック、まる動物病院、五井動物病院、どんぐり動物病院、小板橋病院、森動物病院みのり台病院、森動物病院本院、おさんぽ動物病院、エコルスタ整骨院、＜講演料＞松戸市立松飛台第二小学校・松戸市立八ヶ崎第二小学校

◇ごあいさつ◇

盲導犬を普及させる会 会長 森 俊士

新型コロナウイルス感染症が5類の一般感染症に分類され、感染症に基づく、新型コロナ陽性者及び濃厚接触者の外出自粛は求められなくなりました。各種イベントも行われるようになり、当会もここ数年開催を自粛していた身体障害者補助犬交流会を11月3日に行いました。お休みしていた4年の間に盲導犬を普及させる会の学校授業などの活動を積極的にお手伝いいただいていた盲導犬ユーザーの森さんと保谷さんが相次いで他界されました。ご冥福をお祈りいたします。交流会も久しぶりなのでお手伝いのボランティアを募集。松戸市民劇場の通路や階段・トイレなどで視覚障害者の手引き歩行の講習を行いました。当日は千葉県内の盲導犬ユーザー・松戸市視覚障害者協会・ボーイスカウト松戸5団・出前盆踊り隊他一般市民の方々が参加しBBQ・視覚障害者の方々への配膳実習・手引き歩行実習・「盲導犬の歌」などを合唱・盆踊りを楽しみました。現在松戸在住の盲導犬ユーザーは松井進さんお一人です。学校で盲導犬授業をご希望の方は講演日は月曜日になりますのでご了承ください。(4/07 ニュースレター送付作業ボランティア大募集)

● 第26回総会開催案内

1. 総会日程並びに会場

開催日時 2024年4月14日(日)9時～13時

開催場所 松戸市民劇場(松戸市本町11-6)第1会議室

総会当日出席できない方でご意見のある方は電話またはFAXで事務局までご連絡ください。ご欠席の方はすべての議題に委任頂いたものとして決議させていただきます。

2. 2023年活動報告

- ①小学校での盲導犬講演(2カ所)
- ②県内身体障害者補助犬のサポート
- ③身体障害者補助犬訓練所のサポート
- ④身体障害者補助犬交流会ボランティア研修会
- ⑤身体障害者補助犬交流会

盲導犬使用希望者募集

2024年主な行事予定

1/15 松戸市立高木第二小学校盲導犬授業

1/28 盲導犬を普及させる会監査会・新年会

2/05 私立昭和学院小学校盲導犬授業

3/02 ニュースレター編集会議

4/07 ニュースレター送付作業(松戸市民劇場)

4/14 盲導犬を普及させる会総会(松戸市民劇場)

11月 身体障害者補助犬交流会 予定



ニュースレター編集会議&懇親会

令和5年決算

収入の部			支出の部		
項 目	金 額		項 目	金 額	
前年度繰越金		5,309,440	活動費		184,444
京葉銀行定期預金	2,032,857		学校講演等講演料	6,000	
京葉銀行普通預金	14,508		交流会経費	138,444	
郵便貯金	3,209,692		諸会費・寄付金	40,000	
手持ち現金	52,383				
利息			事務局運営費		478,998
京葉銀行定期預金	24	24	ホームページ運営費	44,320	
京葉銀行普通預金	0		倉庫保管料	30,000	
			事務局費	274,806	
会費		150,000	通信費	57,840	
個人会員	70,000		消耗品費	24,787	
賛助会員	80,000		支払手数料	16,431	
			旅費交通費	20,100	
寄付金他		411,074	保険料	1,650	
寄付	124,500		雑費	9,064	
協賛金	35,000		小計	478,998	
募金箱	149,424		次年度繰越金(盲導犬導入資金を含む)		5,207,096
グッズ販売	6,150		京葉銀行定期預金	2,032,881	
参加費	66,000		京葉銀行普通預金	32,154	
講演料	30,000		郵便貯金	3,141,555	
			手持ち現金	506	
合 計		5,870,538	合 計		5,870,538

「盲導犬とスマートフォンで町を安全に歩く！！私の GPS 活用法」

盲導犬を普及させる会アドバイザー 松井進

昨年のニュースレターでも紹介しましたが、私は現在5頭目の盲導犬「ウパム」と生活しています。

盲導犬は視覚障害者の安全な歩行を支援してくれる大切なパートナーなのですが、目の見えない人を案内してくれるガイドヘルパーの方とは異なり、できないことも多々あります。例えば盲導犬は信号の色の判断はできませんし、地図を見て案内してもらうことはできません。あくまでも使用者が頭の中で地図をイメージしながら、盲導犬に指示を出して歩くということになります。慣れたところや行ったことがあり、地図が頭に入っている場所なら良いのですが、初めての場所や慣れていないところでは、どうしても支援が必要です。そこで私はスマートフォンを活用することで、安全性の確保や、不便さを少しでも解消できないものかと考えました。

まず信号の色の判断は、iPhone に「OKO (オコ) というアプリを入れて、赤と青を音で判断しています。私は普段首からケースに入れた iPhone をかけ、カメラを胸の前あたりに保持するようにして歩いています。

そしてカメラで信号を認識すると、ピープ音の高低差と合成音声、それに振動で青か赤かを知らせてくれます。カメラを信号機の方角に向けるというテクニックは必要ですが、慣れてくるとある程度把握することができます。

もちろん音響信号があれば、赤と青の判断は容易なのですが、音響信号は普及率が低く、早朝や夜などは周囲への配慮から停止してしまう場所が多いため、自力でスマートフォンで判断できるのはとても助かります。

また GPS ですが、私は「あしらせ」という振動で状態を伝えてくれる機器を靴に装着して、「あしらせ用のアプリ」を使って歩いています。例えば右側に曲がる時には、右側の靴に装着したデバイスが振動し、左側に曲がる時には左側のデバイスが振動して曲がり角がくるのを知らせてくれます。

また振動の早さで例えば曲がり角が遠い時には振動の回数が少ない状態で、曲がり角が近付くと連続して振動するなど、ある程度距離感も把握することができます。正しい道を歩いている時の振動のパターンのほか、前に向かって歩く時には足の側面が振動し、後ろに進まなければならない時には足のかかとの部分が振動するため、進むべき方向も判断できます。もちろんスマートフォンから音声の道案内もしてくれますし、信号があることも教えてくれます。

あしらせの使用方法はとても簡単で、アプリを起動したら目的地を入れて道案内を開始するだけです。

また近くのお店を検索したり、公共施設を設定して道案内してもらうこともできます。歩行中にはコンビニなど近隣のお店を案内してくれる機能もあるので、町歩きが楽しくなります。また GPS を使用している場合、車のカーナビなどで目的地に近付くとナビゲーションが終了してしまい困ることが多々あるのですが、あしらせはアイコサポートというテレビ電話で支援者を呼び出して対話をしつつ目を借りながら支援してもらうサービスと連携しているため、例えば支援者と通話しながら店の看板を見てももらうこともできます。

アイコサポートは使用者のカメラからの映像だけでなく、GPS を使用して利用者の位置を把握できるため、現在地からの道案内をお願いすることも可能です。最後にご紹介したいのは「駅どっち」というアプリです。これは iPhone だけでなく、Android 端末でも使用可能です。使用法はとてもシンプルで、アプリを立ち上げると近隣の駅までの距離を教えてくれます。ここから歩いて行けるのか、タクシーを呼ばないと難しい距離なのかの判断の材料にもなりますし、最寄りの駅がわかれば、GPS をセットして道案内をしてもらうことも可能です。盲導犬は確かに使用者を安全に誘導してくれますが、目的地までの道を覚えていて案内してくれるわけはありません。そのため特に出張など初めてのところに行くには、GPS 等の歩行支援アプリの助けも併用しながら、少しでも安全に確実に歩ければと考えています。もちろん周囲の人への援助依頼や、声がけなどの支援もいただきながら、少しでも安心安全な歩行が実現できればと願っている今日この頃です。



視覚障害者のための

「あしらせ」アプリ



ホームページ



インスタグラム



当会アドバイザー・介助犬ユーザーの西澤さん&ラッキー君が災害時の消防ヘリコプターによる吊り上げの救助活動を経験してきたので報告(当日は盲導犬・聴導犬も参加)。浜松航空消防隊員が西澤さんと介助犬を優しく安全にホールドしヘリコプター内に確保する姿はドラマティックでした。(資料提供:特定非営利法人日本補助犬情報センター)

松戸市立ハケ崎第二小学校五年生 盲導犬授業感想文
福祉や盲導犬授業での手引き体験を通して勉強を反映したショッピングモールを作る事を考えました。

(担任)

Aさん ぼくは盲者体験を通して障害を持つ人へのイメージが変わって、色々な事に心がけようと思いました。また今せっけいしている(みつばちモール)は盲導犬を普及させる会のお話を参考に音声の出る建物や、エレベーターのボタン、通路などに点字ブロックを設置して障害を持つ人に使いやすいようにすると良いと思いました。そして見学で小さいお店では道がせまく車いすの人や盲導犬を連れている人には通りにくいのではないかなと思いました。そのためお店にある物やたなを少なくすれば通りやすくなると思いました。障害を持つ人も、持たない人もみんなが楽しくお買い物や生活しやすくなる世の中になればいいと思いました。これまで僕は障害を持つ人の事を意識しないでいましたが、これからは関心を深めていきたいです。

Bさん 私は盲導犬盲者体験をしておどろいたことがたくさんありました。今まで盲者の人は、人が介護

をしてくれるのだと思っていたけど、犬が盲者の人の言ったことにしたがって移動ができるのがすごいと思いました。実際に目かくしをして盲者体験をした時、まわりの様子がわからないから少しこわい気持ちもありました。でも、ほ助してくれる人の声かけをたよりに進んだので安心もあって、とても声かけは大切なんだなと思いました。盲導犬ですすごいと思ったことは、ちゃんと駅の改札に行けたり、だん差などで止まったり、盲者の道案内しながら危険をかいひできるのがすごかしこいと思いました。私はこの体験を通して自分のショッピングモールの工夫を四つ考えてみました。一つ目は音声案内です。音声案内はみつばちモールの全てのお店にとりつけて、お店の情報をわかりやすく伝えるのにいいと思いました。二つ目は点字ブロックをつけることです。点字ブロックはお店の中や通路につけます。三つ目は商品に点字をつけることです。点字をつければ盲者の人が他の人に聞かなくても商品をさがせると思いました。私は盲者体験を通してみつばちモールの盲者の人のための工夫を考えました。これからもいろんなお店で盲者の人、しょう害のある人も使いやすい工夫が増えるといいなあと思います。



ペットボトルの位置を音を立てて教える



狭い所をカニさん歩きで通る



松戸市社協と盲導犬授業のコラボ